

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和4年8月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【底質（一般項目）、陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 4
3. 調査結果の概要	I - 5

II 事後調査結果

1. 底質	II - 1
2. 陸域生態系（鳥類）	II - 2

I 事後調査の概要

1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和4年8月（底質、陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（令和4年8月）

埋立地周辺における調査

(1) 底質（一般項目）表-1(1)

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全燐(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	8月3日	2回/年 (8月、2月)

(2) 陸域生態系（鳥類）表-1(2)

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	8月28日、29日	4回/年(3年毎に実施) (5月、6月、8月、2月)

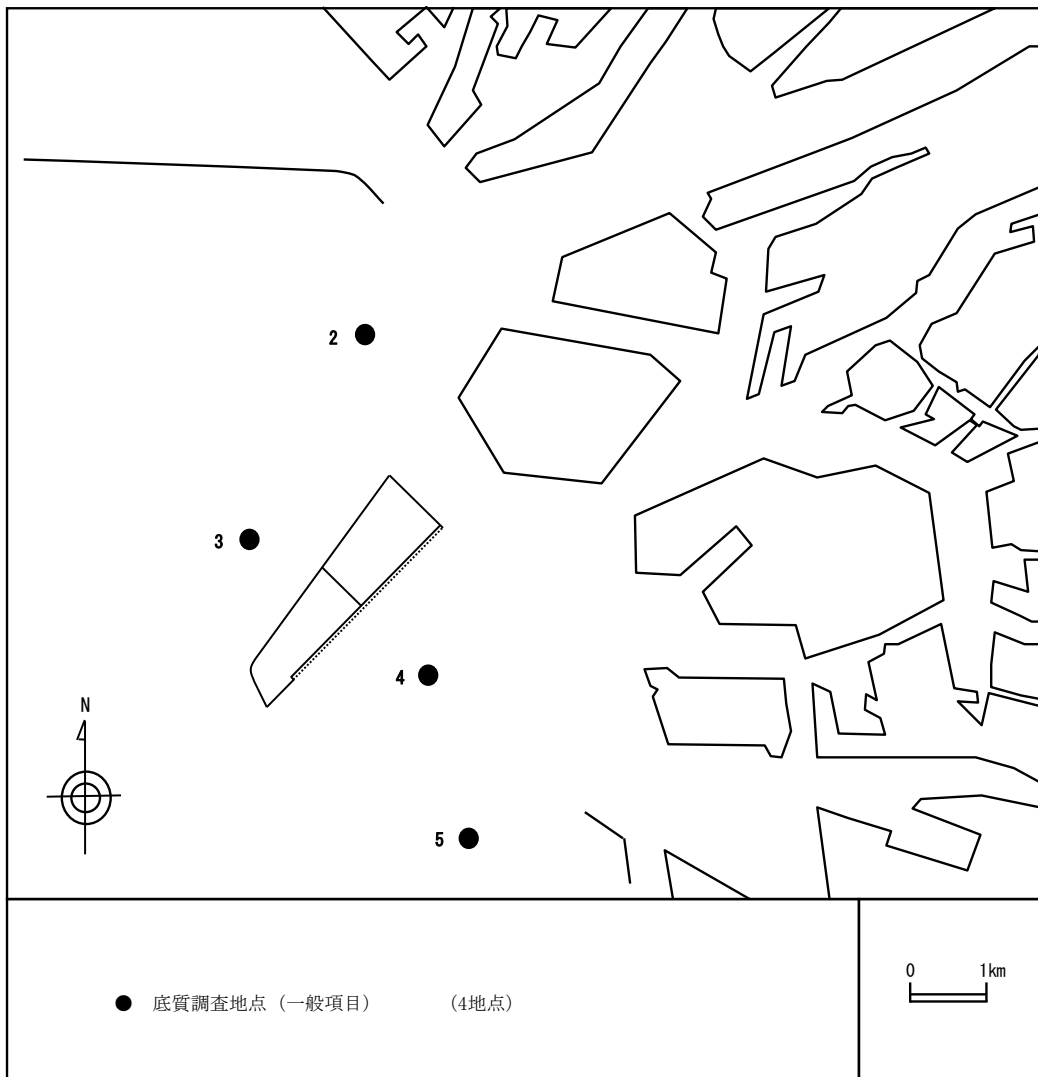
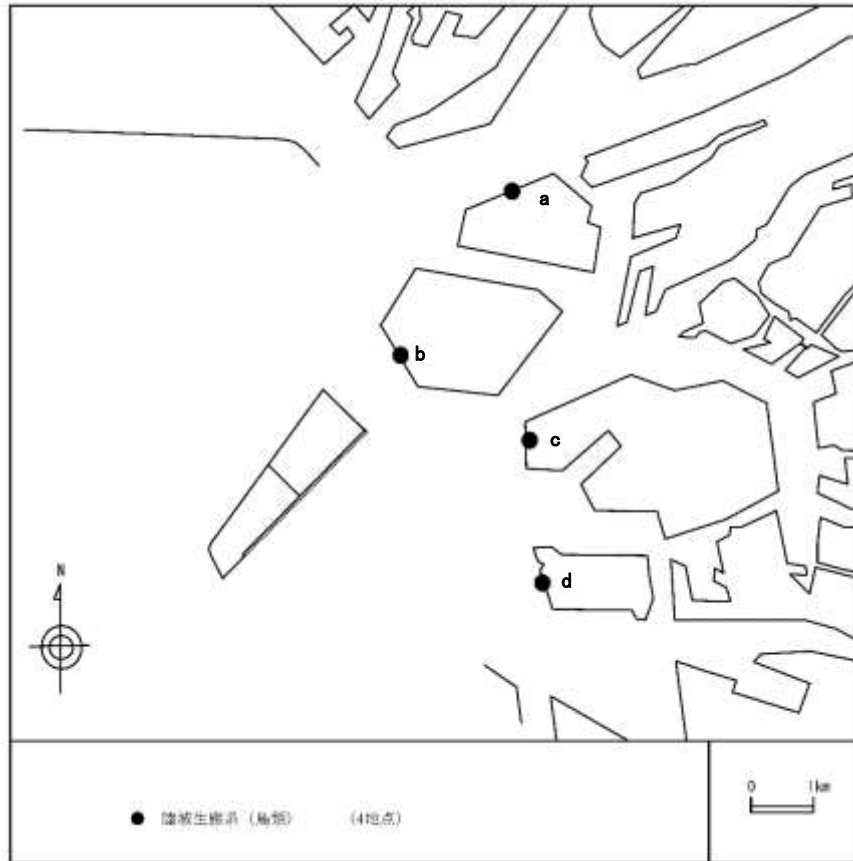


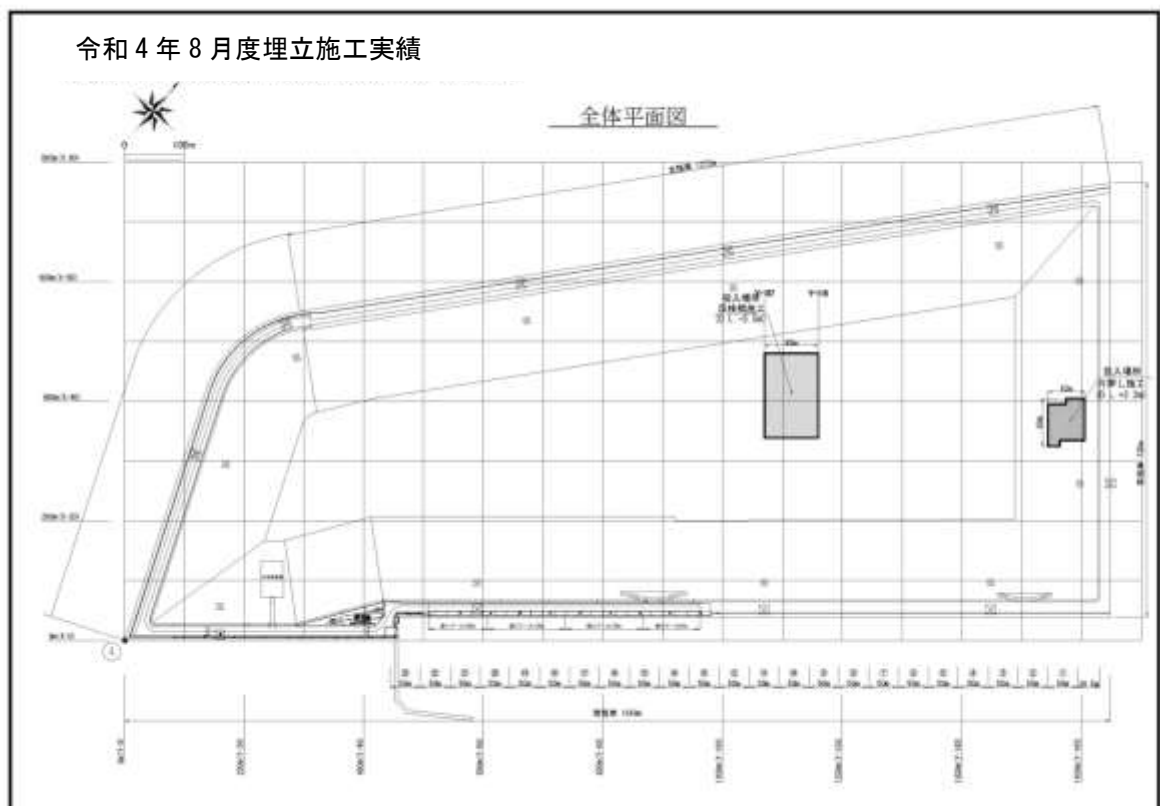
図-1(1) 底質(一般項目)の調査地点



図－1 (2) 陸域生態系 (鳥類) の調査地点 (令和4年8月)

2. 工事の実施状況

令和4年8月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量(m ³)	進捗率 (%)
6,676,434	47.8

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 底質 [底質様式第1号]

強熱減量は9.2～11%、化学的酸素要求量(COD)は20～30mg/g、硫化物は0.4～0.6mg/g、全窒素(T-N)は1.7～2.9mg/g、全磷(T-P)は0.55～0.76mg/gの範囲であった。

(2) 陸域生態系(鳥類) [陸域生態系(鳥類)様式第1～3号(埋立地関連)]

鳥類の出現種類数は、4地点合計で8目18科30種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く86羽であり、次いで調査地点cの61羽、調査地点dの39羽、調査地点aの27羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点bが最も多く24種であり、次いで調査地点cの18種、調査地点dの11種、調査地点aの10種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、トウネン(チドリ目シギ科)、ツバメ(スズメ目ツバメ科)、シロチドリ(チドリ目チドリ科)、メダイチドリ(チドリ目チドリ科)、ハマシギ(チドリ目シギ科)であった。

事業実施前(平成9年8月:調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ)に実施した8月の結果は、4地点合計で8目18科35種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系(鳥類)表-2 事業実施前調査結果

区分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月			
出現状況	目	8	8	10	9			
	科	18	17	21	19			
	種	35	37	37	26			
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ	(35.4%)	ヒドリガモ	(18.1%)	トウネン	(32.2%)	ムクドリ	(42.6%)
	トウネン	(27.2%)	ホシハジロ	(11.0%)	コアジサシ	(8.4%)	スズメ	(12.3%)
	カワウ	(8.8%)	キンクロハジロ	(7.6%)	シロチドリ	(7.3%)	ツバメ	(12.3%)
	カルガモ	(7.1%)	カワウ	(6.1%)	アジサシ	(4.5%)	コアジサシ	(9.6%)
	スズメ	(4.5%)	スズメ	(5.0%)	ハシブトガラス	(4.3%)	ドバト	(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成 9年 8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年 2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

II 事後調查結果

底質様式第 1 号

底質調査結果（一般項目）[令和 4 年 8 月分]

調査日：令和4年8月3日

項目	調査点	2	3	4	5	最小値 ~ 最大値		平均値
	採泥時刻		11:19	11:07	10:20	10:01	—	
粒度組成 〔%〕	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	~ 0.0	0.0
	中礫 (4.75~19mm)	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	~ 1.3	0.4
	細礫 (2.00~4.75mm)	0.3	0.2	0.2	0.0	0.0	~ 0.3	0.2
	粗砂 (0.850~2.00mm)	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	~ 0.4	0.3
	中砂 (0.250~0.850mm)	0.8	0.7	0.4	0.5	0.4	~ 0.8	0.6
	細砂 (0.075~0.250mm)	0.7	0.6	0.2	0.4	0.2	~ 0.7	0.5
	シルト (0.005~0.075mm)	67.0	65.6	65.9	68.3	65.6	~ 68.3	66.7
	粘土 (0.005mm以下)	30.6	31.2	33.1	30.6	30.6	~ 33.1	31.4
含水率 [%]		63	67	69	68	63	~ 69	67
強熱減量 [%]		9.2	10	11	9.7	9.2	~ 11	10
化学的酸素要求量 (COD) [mg/g乾泥]		20	26	30	28	20	~ 30	26
硫化物 [mg/g乾泥]		0.4	0.6	0.5	0.5	0.4	~ 0.6	0.5
全窒素 (T-N) [mg/g乾泥]		1.7	2.5	2.9	2.7	1.7	~ 2.9	2.5
全磷 (T-P) [mg/g乾泥]		0.55	0.72	0.68	0.76	0.55	~ 0.76	0.7
酸化還元電位 [mV]		-327	-332	-328	-346	-346	~ -327	- 333

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和4年8月分〕

調査日：令和4年8月28日、29日

No.	目名	科名	種名	渡り区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥		1	6		7
2	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥		1	1		2
3	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	移入種			3		3
4			キジバト	留鳥	3	3	2	1	9
5	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	5	1	10	8	24
6	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥	2	1	3	1	7
7			ダイサギ	留鳥			4		4
8			コサギ	留鳥			2		2
9	チドリ目	チドリ科	ムナグロ	旅鳥		2			2
10			シロチドリ	留鳥		7			7
11			メダイチドリ	旅鳥		6			6
12		シギ科	アカアシシギ	旅鳥		1			1
13			アオアシシギ	旅鳥		2			2
14			キアシシギ	旅鳥	1	1	1		3
15			ソリハシシギ	旅鳥		1	4		5
16			イソシギ	留鳥	2	1	7		10
17			ミユビシギ	旅鳥		3			3
18			トウネン	旅鳥		28			28
19			ハマシギ	冬鳥		4			4
20		カモメ科	ウミネコ	留鳥	1	1		17	19
21	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		1	3	1	5
22		タカ科	トビ	留鳥		1			1
23	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス	留鳥	4	1	4	2	11
24		ツバメ科	ツバメ	夏鳥		16			16
25		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	2		3	1	6
26		セッカ科	セッカ	留鳥		1	1		2
27		ヒタキ科	イソヒヨドリ	留鳥		1	1	1	3
28		スズメ科	スズメ	留鳥	5		5	3	13
29		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥		1	1	1	3
30		アトリ科	カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）	2			3	5
合計（8目18科30種）				目数	5	8	8	6	8
				科数	9	15	13	11	18
				種類数	10	24	18	11	30
				個体数	27	86	61	39	213

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和3年度生物リスト」（国土交通省 2021）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和4年8月分]

調査日：令和4年8月28日、29日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	8	8	6	8
	科	9	15	13	11	18
	種	10	24	18	11	30
出現個体数		27	86	61	39	213
主な出現種 (個体数、組成比率)		スズメ (5羽、18.5%)	トウネン (28羽、32.6%)	カワウ (10羽、16.4%)	ウミネコ (17羽、43.6%)	トウネン (28羽、13.1%)
		カワウ (5羽、18.5%)	ツバメ (16羽、18.6%)	イソシギ (7羽、11.5%)	カワウ (8羽、20.5%)	カワウ (24羽、11.3%)
		ハシブトガラス (4羽、14.8%)	シロチドリ (7羽、8.1%)	カルガモ (6羽、9.8%)	カワラヒワ (3羽、7.7%)	ウミネコ (19羽、8.9%)
		キジバト (3羽、11.1%)	メダイチドリ (6羽、7.0%)	スズメ (5羽、8.2%)	スズメ (3羽、7.7%)	ツバメ (16羽、7.5%)
		イソシギ (2羽、7.4%)	ハマシギ (4羽、4.7%)	ダイサギ (4羽、6.6%)	ハシブトガラス (2羽、5.1%)	スズメ (13羽、6.1%)
		ヒヨドリ (2羽、7.4%)		ハシブトガラス (4羽、6.6%)	ミサゴ (1羽、2.6%)	
		カワラヒワ (2羽、7.4%)		ソリハシシギ (4羽、6.6%)	アオサギ (1羽、2.6%)	
		アオサギ (2羽、7.4%)			イソヒヨドリ (1羽、2.6%)	
		ウミネコ (1羽、3.7%)			キジバト (1羽、2.6%)	
		キアシシギ (1羽、3.7%)			ヒヨドリ (1羽、2.6%)	
					ハクセキレイ (1羽、2.6%)	

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和4年8月分〕

調査日：令和4年8月28日、29日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	18.5%	1	シギ科	8	47.7%
1	スズメ科	1	18.5%	2	ツバメ科	1	18.6%
3	カラス科	1	14.8%	3	チドリ科	3	17.4%
4	ハト科	1	11.1%	4	ハト科	1	3.5%
4	シギ科	2	11.1%	5	セキレイ科	1	1.2%
6	ヒヨドリ科	1	7.4%	5	セッカ科	1	1.2%
6	アトリ科	1	7.4%	5	ヒタキ科	1	1.2%
6	サギ科	1	7.4%	5	サギ科	1	1.2%
9	カモメ科	1	3.7%	5	カモ科	1	1.2%
				5	カモメ科	1	1.2%
				5	カラス科	1	1.2%
				5	カイツブリ科	1	1.2%
				5	ミサゴ科	1	1.2%
				5	ウ科	1	1.2%
				5	タカ科	1	1.2%

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ科	3	19.7%	1	カモメ科	1	43.6%
2	ウ科	1	16.4%	2	ウ科	1	20.5%
3	サギ科	3	14.8%	3	スズメ科	1	7.7%
4	カモ科	1	9.8%	3	アトリ科	1	7.7%
5	スズメ科	1	8.2%	5	カラス科	1	5.1%
5	ハト科	2	8.2%	6	ヒタキ科	1	2.6%
7	カラス科	1	6.6%	6	サギ科	1	2.6%
8	ミサゴ科	1	4.9%	6	ミサゴ科	1	2.6%
8	ヒヨドリ科	1	4.9%	6	ヒヨドリ科	1	2.6%
10	ヒタキ科	1	1.6%	6	セキレイ科	1	2.6%
10	セッカ科	1	1.6%	6	ハト科	1	2.6%
10	カイツブリ科	1	1.6%				
10	セキレイ科	1	1.6%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。